

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果報告 南越前町小・中学校の結果概要と対策

南越前町教育委員会

平成26年4月22日(火)に全国学力・学習状況調査を南越前町内の全ての小学校(4校)の6年生102名,中学校(3校)の3年生97名を対象に行いました。今年度の調査結果については,児童生徒の学習状況の改善に役立て,教育委員会や学校が保護者や地域の皆様とともに協力し合って一層の学習効果を高める目的で,以下の内容で公表いたします。

1. 南越前町全小・中学校の学力調査の結果

平均正答率に関しては,町内の小中学校ごとの結果を全国トップレベルの福井県と比較し,上下各2.5ポイント幅の範囲内を同程度,さらにそれを上回る範囲と下回る範囲とで表わすことで,学習状況等の各項目と比較して課題意識が持てるようにします。

(注)本町内の小中学校は小規模校が多く,平均正答率を用いて表わすと,その年度の数値が一人歩きしたり,経年変化を追うと学校の序列化につながったりするなど,学力調査の目的を逸脱してしまう恐れが大きいと考え,以下のとおり表しました。

◆小学校(4校)

◆中学校(3校)

教科	領域	本町の結果 (福井県比較)
国語	A(知識)	同程度
	B(活用)	同程度
算数	A(知識)	同程度
	B(活用)	同程度

教科	領域	本町の結果 (福井県比較)
国語	A(知識)	上回る
	B(活用)	上回る
数学	A(知識)	上回る
	B(活用)	上回る

*本県の平均正答率より
+2.5ポイントを上回る(上回る)
-2.5~+2.5ポイント(同程度)
-2.5ポイントを下回る(下回る)

(今年度中学校では,各教科・領域
でトップレベルにあります。)

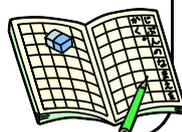
2. 学力調査結果の成果と課題

各教科の調査結果は,「成果」と「課題」に分類して特徴的な傾向を示し,伸ばす面や改善すべき面を具体的に把握できるものとして示しています。

また,学力調査の結果を判断する基準は,県の平均正答率から±5ポイントの幅とし,5ポイント程度上回っているものを「成果」とし,5ポイント程度下回っているものを「課題」として取り上げました。

◆小学校 国語

	成 果	課 題
A (知識)	○複数の事柄を並列の関係で書ける 「～たり,～たり」	▼学年別漢字配列表に示されている漢字を正しく書く ▼情景描写の効果を捉える
B (活用)	○付箋に書かれた内容を関係づけながら,最初に持った疑問を捉えられる ○二つの詩を比べて読み,表現の工夫を捉えられる	▼質問の意図を捉える ▼課題を解決するために,目次や索引を活用して,本を効果的に読む

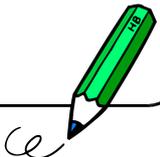


◆小学校 算数

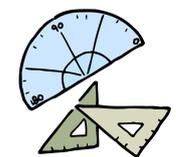
	成 果	課 題
A (知識)	○減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる ○円周の長さを,直径の長さを用いて求めることができる ○四則の混合した式の意味について,理解している	▼割合が1より小さい場合でも,比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解する ▼単量当たりの大きさの求め方を理解する (8mに16人いるAの部屋について,1m当たりの人数を求める式を書く)
B (活用)	○示された場面から計算の結果の見通しを持ち,(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる ○示された場面から基準量と比較量を捉え何倍かを求めることができる	▼全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択する ▼示された情報を基に,条件に合う時間を求める ▼示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し,その理由を記述する

◆中学校 国語

	成 果	課 題
A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出せる ○話し合いの方向を捉えて、司会の役割を果たせる ○多様な方法で材料を集めながら考えをまとめられる ○古典と昔話とを対応させて内容を捉えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ▼目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する ▼語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う ▼辞書を活用して、語句の意味を適切に書く
B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ○文章に表れているものの見方について、自分の考えを持てる ○複数の資料から必要な情報を読み取れる ○落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書ける 	<ul style="list-style-type: none"> ▼複数の資料を比較して読み、要旨を捉える ▼資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く



◆中学校 数学

	成 果	課 題
A (知識)	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な連立二元一次方程式を解くことができる ○一次関数$y=ax+b$について、aとbの値とグラフの特徴を関連づけて理解している ○樹形図などを利用して、確率を求めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ▼底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解する ▼度数分布表から相対度数を求める 
B (活用)	<ul style="list-style-type: none"> ○ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる ○グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ▼予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明する ▼不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明する

3. 学習状況調査結果

学習状況調査の結果は「良好な点」と「課題点」に分類し、児童生徒の自尊感情や生活習慣、規範意識、学習習慣などの項目を国や県の様子とも照らし合わせながら比較しました。

分類の基準は、『2. 学力調査結果』と同様に、県の平均を上回っている範囲のものを「良好な点」、下回っている範囲のものを「課題点」としました。

ここで取り上げる「良好な点」と「課題点」は、本町内の全児童生徒の状況をまとめた次のようなチャート図に表されるように、児童生徒の特徴と言えるものです。

<資料1；南越前町内小学校>

児童質問紙（福井県基準）



<資料2；南越前町内中学校>

生徒質問紙（福井県基準）



(②資料の外側の点線は、見やすさという観点で引いたものであり、何らかの基準を示すものではありません。)

このチャート図(資料1)をみると、町内の小学生は「国語Aおよび算数Aで好成績をあげていること。さらに、生活習慣が良好で、総合的な学習にも意欲的に取り組んでいること。」などがわかります。

(資料2の中学校も、同様の見方ができます。)

このような特徴を見るために、学習状況調査は、学習習慣・生活習慣・言語活動(読解力)・自尊感情・規範意識等の各項目の状況がわかるような質問になっています。その結果をもとに、南越前町の小中学校の児童生徒の「良好な点」と「課題点」を次の表のようにまとめました。

◆小学校

良好な点	課題点
<ul style="list-style-type: none"> ○自分には良いところがあると思う ○難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している ○将来の夢や目標をもっている ○学校へ行くのは楽しい ○学級でみんなと協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある ○今住んでいる地域の行事に参加している ○学校の決まり守っている ○友だちとの約束は守っている ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ▼友達の前で自分の考えや意見を発表するのは苦手だ ▼土曜・日曜に勉強の時間が確保できていない ▼読書の時間が少ない ▼家で、自分で計画を立てて勉強できていない ▼地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がない ▼新聞を読んでいない ▼朝食を食べない日が多い



◆中学校

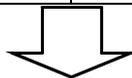
良好な点	課題点
<ul style="list-style-type: none"> ○将来の夢や目標をもっている ○学校に行くのが楽しい ○学級でみんなと協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある ○先生は、自分の良いところを認めてくれていると思う ○学校の規則を守っている ○友だちとの約束は守っている ○人の気持ちが分かる人間になりたいと思う ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う ○人の役に立つ人間になりたいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ▼友達の前で自分の考えや意見を発表するのは苦手だ ▼平日に一日2時間以上勉強できていない ▼土曜・日曜に勉強の時間が確保できていない ▼読書の時間が少ない ▼家で、自分で計画を立てて勉強できていない ▼家で、学校の授業の予習ができていない ▼家で、学校の授業の復習ができていない ▼地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がない ▼今住んでいる地域の行事に参加していない ▼新聞を読んでいない

これらの結果を、今後の学校生活で児童生徒のどの面に注目して指導改善してすべきか検討する資料として生かしていきます。

4. 学力調査と学習状況調査の相関関係

学力調査と学習状況調査の結果から分かる相関関係については、小学校・中学校を問わず次のようなことが指摘できます。

<p><平均正答率が高い児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習や話し合い、発表に意欲的に取り組んでいる ○読書が好きである ○家で、自分で計画を立てて勉強することができる ○家で、学校の宿題をしっかりとやっている ○家で、授業の復習をしている ○新聞をよく読む ○ニュースをよく見る(読む) ○人の気持ちが分かる人間になりたいと思う気持ちが強い ○人の役に立つ人間になりたいと思う気持ちが強い 	<p><平均正答率が低い児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ▼朝食を食べない日が多い ▼将来の夢や希望が持てていない ▼自分に良いところがあると感じていない ▼話し合いの時に友達の意見を最後まで聞けない ▼学校で友達関係などの悩みがあっても誰にも相談しない ▼授業で分からないことがあっても、そのままにする ▼難しい問題に直面したとき、あきらめて解かない ▼1日あたり2時間以上、テレビやDVDを見ている ▼1日あたり2時間以上、ゲームをしている ▼1日あたり2時間以上、スマホや携帯を使っている
--	---



◆3, 4の結果から課題として改善を要すること◆

- 1日に2時間以上、テレビやDVDを見たり、ゲームやスマホに時間を使ったりしている児童生徒は、1時間以下の児童生徒に比べて平均正答率が低いことが指摘できます。今後、家庭の協力も得ながら、しっかりルールを決めることや長時間の使用を避ける手だてを考えていきたいと考えています。
【生活習慣の改善】
- 将来の夢や希望が持てなかつたり、自分のよいところを見つけられなかつたりという児童生徒に平均正答率が低い傾向が見られました。このことについても、学校における各行事や授業の中で、また家庭や地域の中でも自分の価値を確認できるような場面の設定をしていくことが大切であると考えています。
【自尊感情】
- 各小中学校において言語活動を活発にする取り組みが行われているにもかかわらず、苦手意識のある児童生徒が多いことが課題としてあげられます。今後、授業における言語活動の効果的な活用について検討し実践することで、自分を表現することに自信を持ち、家族や他の集団とも良い係わりが持てるようになり、それが学力向上につながるよう、学校と家庭共々改善を図っていききたいと考えています。
【学習習慣】

5. 今後の対策

(1) 学校での取り組み

学校では、学力調査や学習状況調査の結果から見えてきた課題点を克服する授業、個に応じた授業や指導を学校教育の全般を通して行うことが大切です。このようなことから、各校の調査結果の「良好な点」を伸ばし、「課題点」を克服する指導を展開するために、次の点に力を入れています。

- ① 教科指導や総合・学活等で「児童生徒相互の学び合い」を意識した授業を展開する。
- ② 朝学習、教科学習など、基礎・基本を徹底する時間を充実する。
- ③ 教育活動の場で、「新聞の活用（N | E）」を推進するなど、情報を活用する力を高める。
- ④ 家庭学習の内容など、個に応じた課題の学習を充実する。
- ⑤ 家庭や地域と連携した「道徳教育」を推進し、個々の生活習慣を向上させる。

それらを踏まえて各学校では・・・



明るく豊かな人間性と健やかでたくましい身体を育むとともに、
「基礎基本の定着を図り、確かな学力を育む」ことを目指しています。



各校の指導・支援体制を充実し、
ユニバーサルデザインの視点を生かし、どの子にも分かりやすい授業(*)
を実施しています。

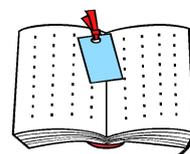
(*) 共生社会を目指して
国が取り組む中で、
学校教育での多様な
教育的ニーズに呼応
して、すべての子に
とって分かりやすい
授業を行うこと。

<展開の留意点>	<期待できる効果>
<p>(1) 学習の展開例</p> <ol style="list-style-type: none"> ① つかむ（学習の見通し） ② 追求する（課題の決定、自力解決） ③ 共有する（伝え合い、学び合い） ④ 振り返る（学習のまとめ） <p>(2) 指導に当たっての留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個に応じた指導と支援の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点から ・教師や支援員などの場に応じた支援や声かけの重視 ② 見通し・振り返りの時間の設定 ③ 言語活動の時間の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・説明や解説、話し合いの時間 ・文章表現の時間 ・聞き取る時間 ・比較、考察する時間 ④ 自己評価や個人評価の実施 ⑤ 発展学習への展開 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習への課題の提供 	<p>☆「伝え合い、学び合い」の活動から、学習への意欲（主体性）、学習内容の定着が高まる。 ☆南越前町の児童生徒の課題を解決することにつながる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動が活発になる。 ・達成感や成就感により、自分に自信が付き「自尊感情」が高まる。 ・「授業内容」を理解できる児童生徒が増えることにつながる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>授業を進める上での学習形態や指導・支援</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> ① 習熟の程度に応じた学習を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・個々のレディネスを把握した学ぶ場の設定 ② 多様な学習形態を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> ・一斉・個別・グループ・ペアでの学習の工夫 ③ 課題に応じた手段の活用。 <ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習活動 ・ICT機器の効果的な利用

(2) ご家庭にお願いしたいこと

家庭での課題が、「家庭での学習時間が少ない」「自分で計画を立てて勉強できていない」等の状況であることから、学校と家庭が連携し、次のように家庭学習の充実を目指しましょう。

- ① 規則正しい生活習慣を身につける
 - ・「早寝・早起き・朝ご飯」を習慣にし、テレビやゲーム、スマホはルールを守って使うようにする。
- ② 家庭学習に、「調べ学習」「繰り返し学習」「読書」などの時間を設け、学習習慣が身につくようにする。
 - ・「調べ学習」とは；学校での学習課題や苦手の教科の予習などを、ノートなどに調べてまとめる学習のこと。
 - ・「繰り返し学習」とは；テストの間違い箇所や計算・漢字の反復などの学習のこと。
 - ・ここでの「読書」とは；読み物や調べ学習等の資料本を活用することによる読書のこと。
- ③ 家庭学習の時間は、自分で目標を決め、毎日継続的に一定時間を確保できるようにする。
 - ・個々の実情に応じ、「読書」や「新聞を読む」時間も盛り込みながら計画的に行う。



※積極的に各ご家庭で、関わり合いを持って下さい。

(3) 地域にお願いしたいこと

学習状況調査の結果からも指摘できる地域の中での課題が、「地域や社会に関心がない」「地域の大人との関わりが少ない」などがあるため、今一度のご理解とご協力をお願いします。

- ① 普段から地区の子どもたちに「おはよう」、「気をつけて行ってらっしゃい」、「おかえり」、「それはあかんよ」などの気軽な声かけをしましょう。
- ② 地区行事を子どもたちにとって魅力あるものにしましょう。
 - ・ 行事の中に役割があって、人から頼りにされたり、自分が役に立っているという自覚が持てたりできるような行事になるよう、「子どもたちの居場所づくり」をお願いします。
- ③ ふるさとに愛着を持てるよう、地域の行事に参加し、ふるさとの良さや「地域の価値」を見つけられるように、行事の中で「楽しかった」「おいしかった」「感激した」など、地域の価値を見いだせる体験活動の企画などよろしくお願いします。

